

Corning Recommended Procedure

SRP 003-699

Issue 1.0

JBO-SRP-091

March 1 2005

作業工法書

ファイバ'コネクタシエルフ CCS-01U

コーニングインターナショナル株式会社

1. ファイバコネクタシェルフ(CCS)の構造と各部名称(図1)

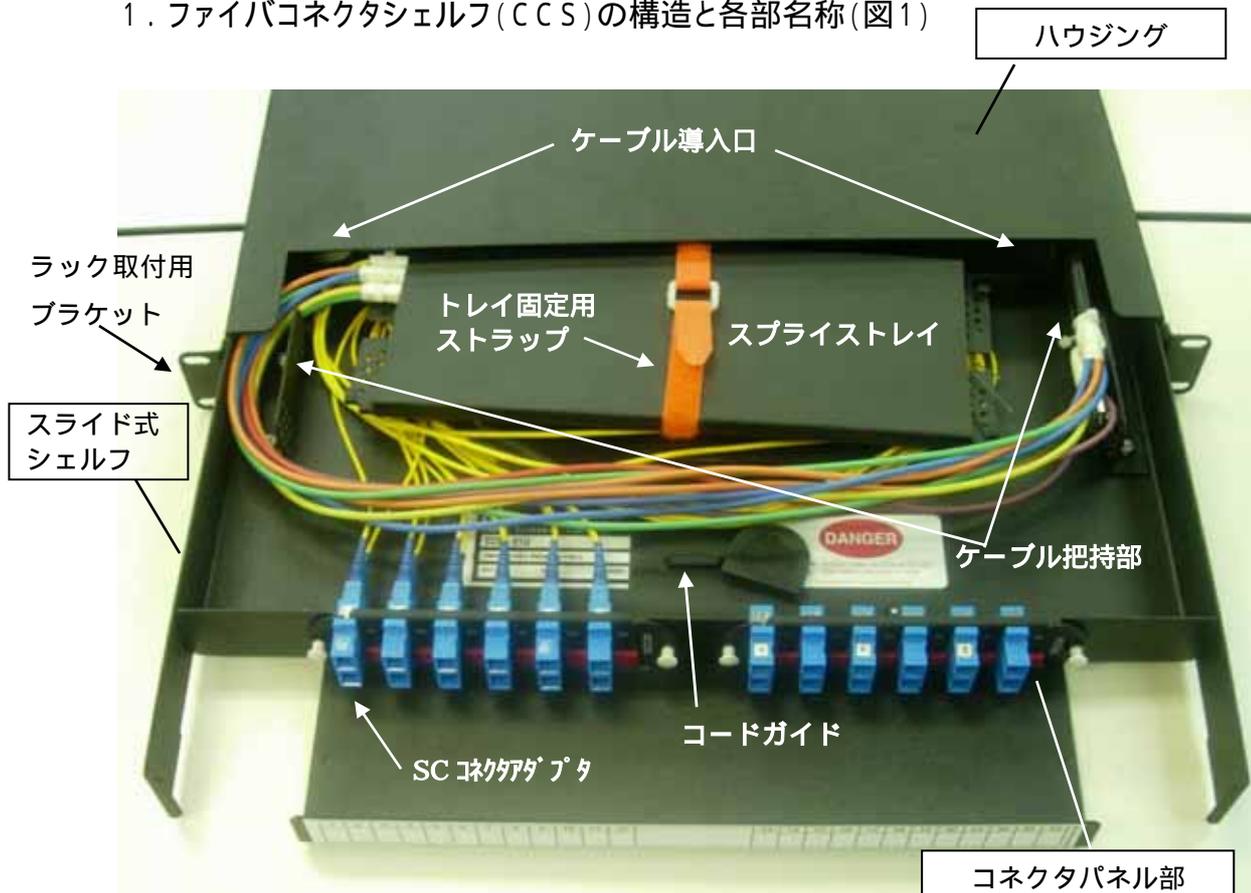


図 1

本製品は、ハウジング、スライド式シェルフ及びコネクタパネル部から構成されています。

- ハウジングは、本製品を19インチラックに取り付けるためのブラケットを有します。
- スライド式シェルフは、左右にそれぞれケーブル導入口、ケーブル把持部を有し、ケーブルをシェルフ内で把持固定する事が可能です。またシェルフ中央にファイバコードガイドを有し、ファイバコードガイド上にスプライストレイ1枚を装着しています。(図2)
- コネクタパネル部は、12～24個のコネクタアダプタを有し、留め具により、シェルフからの脱着が可能です。(図1はSCコネクタアダプタ、24心タイプ)



図 2

2 A . ケーブルの導入 (シェルフ内でケーブルを把持する場合)

ラック側でケーブルを把持する場合は、6ページの2 B . 「ラック側でケーブルを把持する場合の注意点」を参照して下さい。

2 A . 1 ケーブル導入口を決定後、ゴム製ケーブル導入部に切れ目を入れて下さい。

2 A . 2 ケーブルを導入口に通し、トレイの取り回しが十分に可能な長さまでケーブルをシェルフ側に引き出して下さい。(この際、スライド式シェルフの開閉を考慮して、把持後、シェルフ裏のケーブルが十分な余長を保つようにして下さい。図3参照)

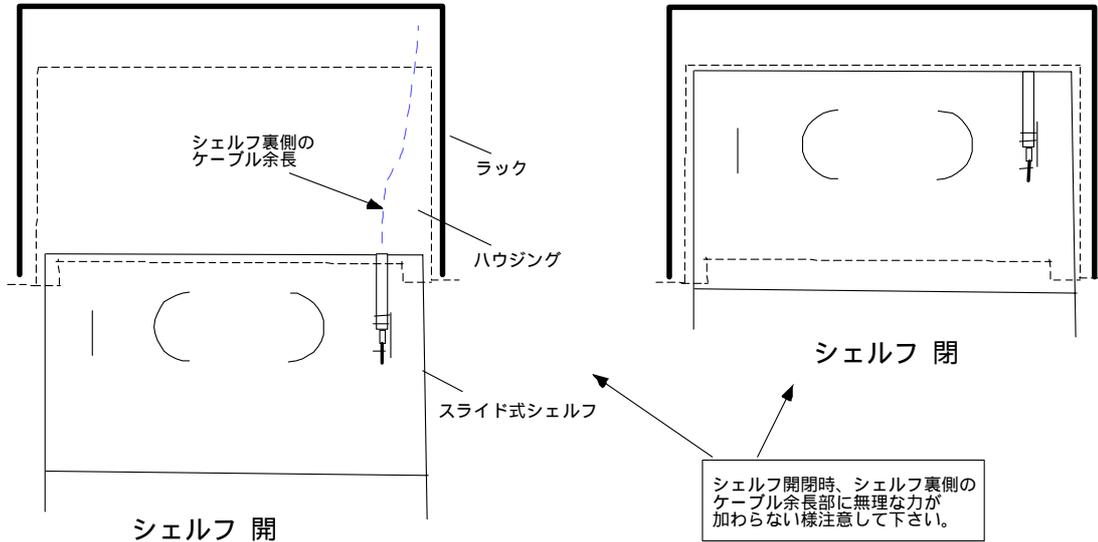


図 3

2 A . 3 ケーブル外被を除去し、スペーサ及びテンションメンバを所定の長さで切断して下さい。光ファイバ心線はシリコンチューブ等で保護することをお奨めします。

ケーブル口出し長 (参考値 ラック側でケーブル把持の場合はこれ以上のシース除去長が必要になります。) (表 1)

| | |
|------------|--------------------------------------|
| シース除去長 | 210cm |
| スペーサ長 | 3cm |
| テンションメンバ長 | 4cm (スペーサー切断部より) |
| 心線保護チューブ長 | 100cm |
| 接続トレイ内心線余長 | 外線ケーブル側: 100cm、 コネクタ付きコード側: 120cm |

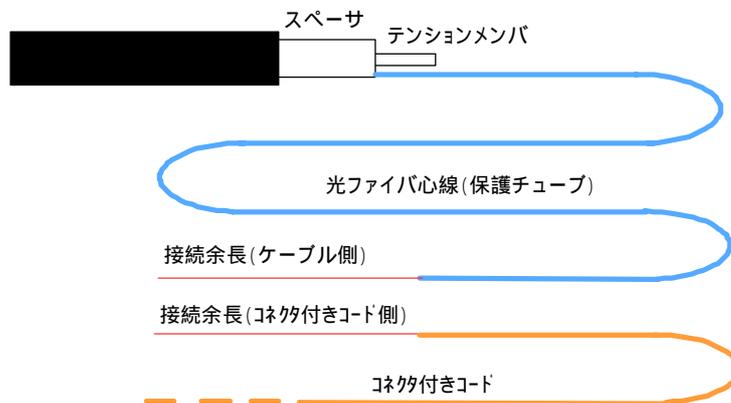


図 4

- 2 A . 4 ケーブル把持部の適当な位置に、テンションメンバを固定用のボルトナットで固定し、ケーブルをケーブルタイ等を用いて固定して下さい。(図5 右)
(なおファイバ心線を保護するため、図5 左 の様に把持金具とテンションメンバ金具の間にナット又はワッシャを挿入する事を推奨します。)



図 5

3 . 片端コネクタ付きコードの収容

- 3 . 1 必要な数量の片端コネクタ付きコードを各コネクタアダプタに接続し、適宜ビニルテープ等で束ねてファイバコードガイドの周囲をなるべく大きい半径で周回します。(未使用のケーブル把持部の外側を周回して下さい。図6 左 参照)
- 3 . 2 所定の位置でコネクタ付きコードをスプライストレイにケーブルタイで固定して下さい。(図6 右)



図 6

4. 外線側光ファイバ心線の収容

- 4.1 光ファイバ心線(保護チューブ)の束を左下写真の様に保護チューブの固定個所にビニルテープを軽く巻きつけて下さい。
- 4.2 スプライストレイに保護チューブ束をケーブルタイで固定して下さい。(図7 右)

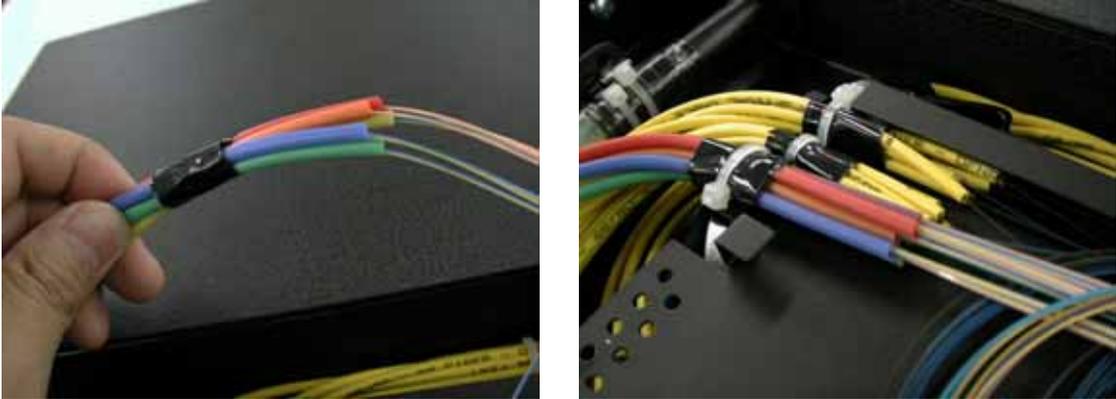


図 7

固定する際、保護チューブ内のテープ心線の動きを阻害しない様、ケーブルタイの締め付け過ぎに注意して下さい。(図8) 保護チューブが前後に動くぐらいに軽く固定して下さい。

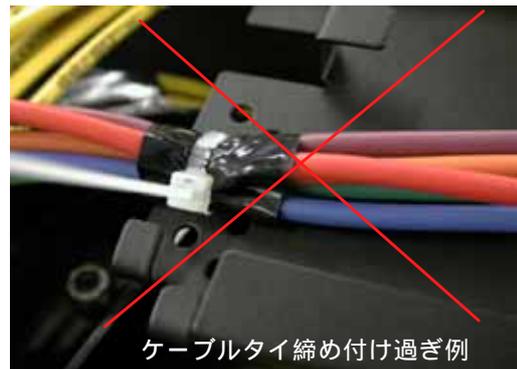
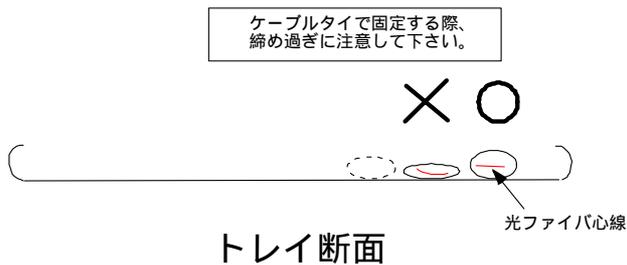


図 8

- 4.3 外線側光ファイバ心線(シリコンチューブにて保護)をコネクタ付きコードの上のせるようにして収納して下さい。(ファイバコードガイドを使うと便利です。図9参照。)



図 9

5. コネクタ付きコードのコード外被を所定長で除去して下さい。

6. スプライストレイへの収容

融着接続後、光ファイバの許容曲げ半径に注意して接続保護スリーブ、光ファイバ心線をスプライストレイに収容して下さい。

7. スプライストレイの固定(図10)

7.1 ファイバ心線、コネクタ付きコードに無理な曲げや張力が加わっていないか確認して下さい。

7.2 固定用ストラップでスプライストレイをファイバコードガイドの上に固定して下さい。

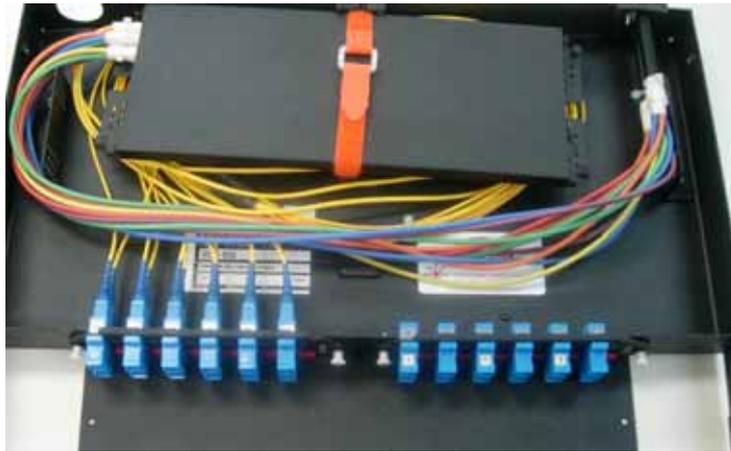


図 10

2 B. ラック側にケーブルを把持する場合の注意点

シリコンチューブ等で光ファイバ心線を保護したものをコネクタシェルフまで導いて下さい。

ケーブル導入口のゴム製ケーブル導入部は丸く切り抜いて下さい。

ラック側のケーブル固定部からシェルフ内のケーブル把持部までは、保護チューブの束の上にさらにスパイラルチューブを巻いて保護して下さい。

光ファイバ心線に過剰な曲げや損傷を与えないよう注意して光ファイバ心線(スパイラルチューブ、シリコンチューブ保護)をシェルフに導入して下さい。

光ファイバ心線の把持の前に、スライド式シェルフの開閉を考慮して、シェルフ裏の光ファイバ心線(スパイラルチューブ保護部)は現場合わせの上、必要十分な余長を保つようにして下さい。(図11)

スパイラルチューブで保護した光ファイバ心線をケーブル把持部にケーブルタイ等で軽く固定して下さい。(図12)

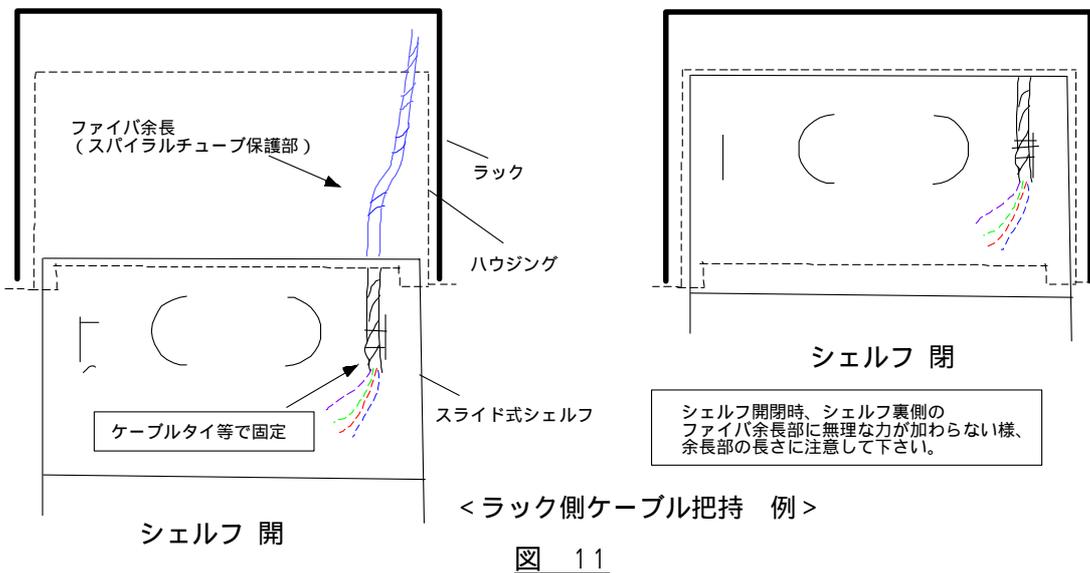


図 12